

医師部門

受賞者： 祖父江 ^{そぶえ} 逸郎 ^{いつろう} (97歳)

公益財団法人長寿科学振興財団 理事長



第二次世界大戦中の1943年に名古屋帝国大学医学部を卒業。大戦時には戦艦大和に海軍医大尉として乗艦し、日本軍の命運を決めたと言われるレイテ沖の海戦に参戦したという異例の経歴を持つ現役の医師である。幸い戦艦大和が撃沈される前に海軍兵学校附教官に発令、転勤となり艦を離れたために、終戦直後は第二復員官となり戦地引揚者の支援と医療活動に従事した。

祖父江氏の医師としての活動は大きく2つあり、ひとつは医学・医療における研究と診療。もうひとつは医学・医療を社会的に普及させるための社会活動である。前者においては専門である内科学や神経内科学をベースに、薬害として注目されたスモン病、ALS（筋委縮性側索硬化症）、パーキンソン病など難病の原因究明と治療法開発に貢献した。後者の社会活動においては、国立療養所中部病院の院長として在任中に、日本で初めての老化・高齢化を扱う研究センターである現国立長寿医療研究センターの構想の提案から開設にと尽力した功績は大きい。医療と社会との連携を深め、地域住民の健康増進とQOL（生活の質）の向上を目指す活動を広げている。

現在は公益財団法人長寿科学振興財団の理事長として、日本が直面している認知症、骨粗鬆症、心虚血性疾患、脳血管障害など高齢者疾患に加え、老年症候群、高齢者特有の脆弱性の問題、健康、経済、孤独の3Kといわれる心身面や社会的側面の諸問題など高齢化社会の課題を解決すべく、97歳を迎えた今も高齢者のロールモデルとして現役で活躍を続けている。

推薦者： 袖井 孝子 お茶の水女子大学 名誉教授